



サッカー分科会情報



サッカーで何を教えるのか？を問い続けて

2022年はワールドカップイヤー。サッカーは世界中で愛されるスポーツなのだという事を、あらためて実感しました。

サッカー分科会では、技術、作戦・戦術指導についての実践研究を中心に、文化研究や最新のサッカーの動向についてまで、毎年議論を重ねています。

2022年の武蔵野大会では、Sさんによる研究報告「サッカーの歴史的発展過程の検討－システムの変遷過程を中心に－」の検討と、私(H)の来年度提案予定の実践「フットボール 3on3」の授業づくりを行いました。初参加者も多く、現地では教材「じゃまじゃまサッカー」の実技体験も行われました。リモートとのハイブリッドで、充実した3日間でした。

これまでの研究をふり返ると、技術指導の系統性研究にはじまり、「じゃまじゃまサッカー」という教材開発、作戦・戦術学習への傾倒、そして、フットボールをトータルに学ばせる授業のあり方の検討を行ってきました。もちろん、常に教科内容

として「サッカーで何を教えるのか？」という課題を持ちながらです。サッカー分科会としての課題はまだまだまだたくさんありますが、実践を通して、



これら研究内容が整理されつつある点は、成果と言えます。

愛知・みはま大会では、みんなで集い、語り合いながら研究を深めます。

実践提案では、サッカーに頻発する「トランジション」を出発点にした「フットボール 3on3」の授業(小学校5年生)の結果から、サッカーで教えるべき技術・戦術、教科内容について検討します。参加者みんなで、実践と同じゲームを体験して、実技を通して教材開発を進めていきたいと考えています。



また、ここ数年実現できていなかった、伝統の「同志会東西対抗戦」も実施予定です。

ぜひ新規の方にもたくさん参加して欲しいと思います。

サッカーをするのが好きな人、サッカーを見るのが好きな人、サッカーをするのが苦手な人、サッカーを教えるのが苦手な先生、…みんなが楽しく学び合えるサッカー分科会を創っていきま
す！！